



# 株式会社フジカ

## アプリシアCTX132は「我々にとって未来の断裁機」と評価 リスロンG37Pアドバンスと同時期導入の相乗効果で生産性50%向上



代表取締役社長  
加藤 義章 氏

「リスロンG37Pアドバンスの導入で生産量が増加する中で、断裁を含めたスムーズな生産を実現できたのは、アプリシアCTX132のおかげです」

株式会社フジカは1970年に紙卸として創業、現在は印刷用紙および紙製品の販売と印刷加工を行っている。1987年以降、10台以上のKOMORI機を導入するなど、積極的に設備投資を実施しており、2023年1月には新たにアプリシアCTX132（プログラム油圧クランプ大型断裁システム）を導入した。加藤義章社長、執行役員生産管理部部長の加藤康司氏、CD課リーダーの米崎敏満氏、生産管理部プリンティングチームリーダーの片寄正喜氏に、同機導入の背景と効果について、そして同時期に導入したリスロンG37Pアドバンス（A全判反転機構付オフセット枚葉印刷機）についてもお聞きした。

### 自動化・スキルレス化が可能な断裁機が 高齢化・後継者不足の課題を解決

紙の卸売販売と印刷加工の受託を事業の両輪とする（株）フジカは、紙に関する確かな知見と豊富なノウハウ・経験を生かし、顧客に最適な用紙や印刷加工の提案を行っている。

加藤社長は「当社が印刷製造の一端を担うことで印刷会社様に企画・制作に注力していただけるよう取り組んでいます」と話す。顧客の製造を補完する役割を果たすため、これまでも先行して設備の充実を

図ってきた。今回、アプリシアCTX132を導入した背景には、断裁士の高齢化・後継者不足の課題があった。「お客様に納める印刷用紙の断裁に加え、印刷加工による断裁もあるため断裁量が多く、断裁機の使用頻度が非常に高いのが特徴です。しかし、断裁士は職人的な要素が強く、人材の定着や技術の伝承が長年の課題でした。そんな折、アプリシアCTXシリーズの販売開始の発表を見て、「自動化やスキルレス化できる断裁機に初めて出会った。トライしたい。高い精度で断裁作業を自動化できるなら、職人の技能を補完できるのではないか」と期待を持ったという。

### 断裁の生産量を大幅に引き上げるアプリシアCTX132

アプリシアCTX132には、独自技術であるアプリシアフロントローディングとアプリシアロータリーグリッパが搭載されている。用紙を自動で搬送・断裁している間に、オペレーターはジョガーへ紙積みをするのができ、1人での作業が可能になっている。加藤本部長は「以前は補助作業員が必要で2台4人体制でしたが、現在は既存機1台とアプリシアCTX132の2台を3人体制で進めることができている。それが実現できて

いるのは、アプリシアCTX132が、補助者を配置せずに、オペレーターの1人作業が可能な機械だからです。手が空いた1人を新しく設備したシュリンク機にまわすことで、断裁後の加工部門のボトルネックが解消され、生産の流れがスムーズになりました。断裁の生産量は、導入前後3カ月の平均と比較して130%増加しています」と効果を話す。

さらに加藤社長は「リスロンG37Pアドバンスで増えた印刷量をカバーしている上に、人員配置の自由度や効率性の向上を鑑みると、全体の生産性は5割ほど



執行役員 生産管理部部長  
加藤 康司 氏  
「高齢化した断裁オペレーターの負担軽減・人材育成のハードル低下・一貫性のある品質の実現の全てに応えてくれる機械です」



CD課リーダー  
米崎 敏満 氏  
「アプリシアCTX132では、1時間当たり1万6000枚、1日トータルで約13万枚の断裁を実現しています。生産量は130%増加しています」



生産管理部プリンティングチームリーダー  
片寄 正喜 氏  
「検査装置が目では見えないような不良も発見してくれます。より自信を持って、良い品質の製品をお客様に提供できています」

高くなっている印象です」と評価する。また加藤本部長は「断裁は完全な手作業であり、特有の技能や経験が精度に影響していた」と導入前について振り返る。現在の状況について米崎リーダーは「フロントローディングとサイドブッシュャーを使用することで、職人ごとのばらつきがなくなり、均一な精度が得られます」と断裁の精度を評価。さらに「自動断裁は紙を回す作業もないため、身体的な負担が大幅に軽減されました。また、AWR（自動切りくず除去機能）のおかげで、切りくずを捨てるために作業を止めることもなくなり、その時間を指導や気配りに充てるのができ、常に効率を考えたと導線が動けるようになっていきます。また、アンローダーの紙揃えが非常に良く、きれいに積めることも助かっています。とても良い機械だと思います」と話した。

サポート体制についても「印刷機と同様にスピード感を持って対応してもらえるので安心できる」と加藤社長は評価した。

### 印刷の仕事量増加 リスロンG37Pアドバンスで対応

同社は2022年12月に、リスロンG37Pアドバンスを導入している。加藤社長は「仕事量の増加に伴い、片面機だけでは対応に限界がありました。ワンパス両面印刷機であるリスロンG37Pアドバンスは、従来機と比較して1時間当たり5割ほど高い圧倒的な生産性で貢献してくれています」。さらに加藤本部長は「A全機は既設の菊全機と比較しても刷版サイズが小さい上、電力消費

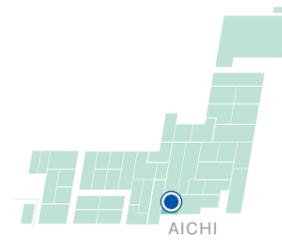
量も少なく、省エネ印刷を実現できます。もともとリスロンA37を使っており、操作性が同じなため、オペレーターの習得も早かったです」と話す。印刷部門の片寄リーダーは「デリバリーのファインが細かく調整できるので、エア調整が容易となり、安定して最高印刷速度1万5000回転で生産できています。印刷中に濃度を追従する機能により、容易に色を安定させられるので、経験の浅い若手も安心して起用できます。高品質の印刷が維持できるので、導入してとても良かったと思います」と評価した。

### 今後は断裁の技術伝承を本格化 KOMORIの全面的な支援を期待

今後は、アプリシアCTX132のJDF連携機能を活用して、断裁の技術伝承を本格化していく計画だ。加藤本部長は「面付けデータから断裁工程を自動で計算して、切る順番や位置をガイドしてくれる機能を活用することで、教える側の負担が軽減され、育成にかかる時間も短縮できるでしょう」と期待する。

最後に加藤社長は、「これからもお客様の工場機能を補完する『黒子』に徹していきます。頼りにしていただけよう、さらに自動化や省人化を進め、生産力の向上を図ります。また、環境問題や、社員の働きやすい環境づくりに取り組み、さらに社会に貢献できる会社づくりに進みます。KOMORIには引き続き機械のサポートに加え、品質・生産性・競争力を考慮した、最良の提案を期待しています」と語った。

インタビュー動画はこちら  
<https://go.komori.com/op221/youtube/fujika/>



本社 / 愛知県春日井市下条町字南本781  
<https://www.fujika1970.co.jp/>  
TEL / 0568-89-3661



最高回転での印刷

生産性、コンパクトな機械サイズ、社内資材の統一や、おむね共通操作でオペレーターの柔軟な配置が可能なおかげで、リスロンG37Pアドバンスの導入を決めた。「一発見当で即本刷り、最高回転での印刷を常に目指しています。機械の性能もあり、ほぼ実現できています」（加藤本部長）



「アプリシアCTX132による省人化の効果は、これまでの人員で新たなシュリンク機導入を可能にし、結果、超短納期案件の物量を大幅に増やすことができています。工場全体で多能工化を進める大きな後押しにもなりました」（加藤本部長）

上: 1人体制での自動断裁  
中: AWR（自動切りくず除去機能）  
下: アンローダーによる自動紙揃え